

他力

― 住職便り ―



第27号（令和四年一月）
専徳寺住職 弘中満雄

【賀春】

あらたまの年のはじめは祝うとも
南無阿弥陀仏の心わするな

（蓮如上人）

※あらたまの年のはじめ⇨お正月の事

令和四年となりました。本年も悲喜こもごも、いろいろな出来事があるでしょうが、お念仏と共に、日々大切に歩んでまいりましょう。

「**明けまして南無阿弥陀仏**」。阿弥陀さま、いつもありがとうございます。います。



【捨身】

さて今年の干支は虎です。仏教で虎といえば、サツタ太子のお話
が有名です。

飢えた虎を救うために崖からとびおりて、身を虎にささげたサツタ太子。
「捨身飼虎」といいます。
サツタ太子はお釈迦さまの前世のお姿です。この話は仏のお慈悲の極まりを私たちに教えてくれるのです。



【身を粉にしてのご恩】

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし

（親鸞聖人）

お念仏の生活とは、獐猛な虎に身をささげたサツタ太子のごとき仏さま、阿弥陀さまがご一緒の日暮らしです。

いのちをかけて私に飛び込んでくださる他力の仏さまがおられます。そのご恩を知り、深いお徳を「南無阿弥陀仏く」と、日々味わいます。

もしたとえ今日、この身が粉々に砕け散るような悲劇にみまわれたとしても、お慈悲のお念仏は私を見放すことはありません。

お互いこの度の人生、尊い仏さまのご縁に出遇い、かけがえのないご恩をいただきましたね。

寅年の本年。虎のように勇敢にチャレンジ：・と同時に、飢えた虎のような私、〈欲・怒り・ねたみ〉のおさまらぬ私へふりそそぐ、仏の身をかけてのご恩に新年あらためてお念仏、感謝する事です。

【法座の中止】

今月予定しておりました「当山御正忌報恩講」ですが、新型コロナウイルス感染防止のため、やむなく中止いたします。

ただ左記の日時において、勤行をいたします。外陣を充分に換気しておりますので、ご希望の方は、どうぞご焼香ください（お焼香の後は、すみやかに退出をお願いします）。

記

日時 一月二十二日（土）

昼一時半～二時

場所 専徳寺本堂